

鹿児島県立福山高等学校

福山みらい創業塾

～現代・郷中教育による未来の人材育成プロジェクト～

1 学校の概要

本校は「福山中学校」として、1918年（大正7年）に、福山出身の田中省三の私財によって私立学校として創設された。イギリスのパブリックスクールを模範にして、日本でトップクラスのパブリックスクール型の学校をつくるため、全国から特色のある教員を集め、早教育によるエリート教育を実践していたのが特徴である。また、西郷隆盛の「敬天愛人」の精神から、「敬天塾」という学生寮も設立して、生徒と教師が共に寝泊まりをして学業に励んでいた。実学教育・英才教育を理念にした教育は世界各国に共鳴し、国内はおろか台湾など外国から優秀な生徒が集まり、その教育を受けた多くの卒業生が国内外の「社会の先導者」となっている。その後、福山中学校は1945年に県立に移管され、学制改革によって県立福山高等学校となり、更に牧之原高校と合併し、1987年に現在の福山高校となった。

令和5年度は、スクールミッションとして「個性と自由を尊重した人間教育を重視し、実社会に役に立つ人材養成と人格陶冶を図り、地域社会と共創しながら、30年後の未来をつくり上げる地域社会の先導者となる人材を育成する」ことを掲げ、自ら学ぶ意欲や社会の変化に対応できる能力、調和のとれた人格の完成、創造性や協調性を備えた心豊かな生徒育成を目標としている。また、具体的な活動として「総合的な探究の時間」を活用した『福山みらい創業塾』を展開し、コンソーシアムとの協働活動をとおして、地域社会と共に「地域社会の先導者」となる人材の育成にも努めている。

2 事業の概要

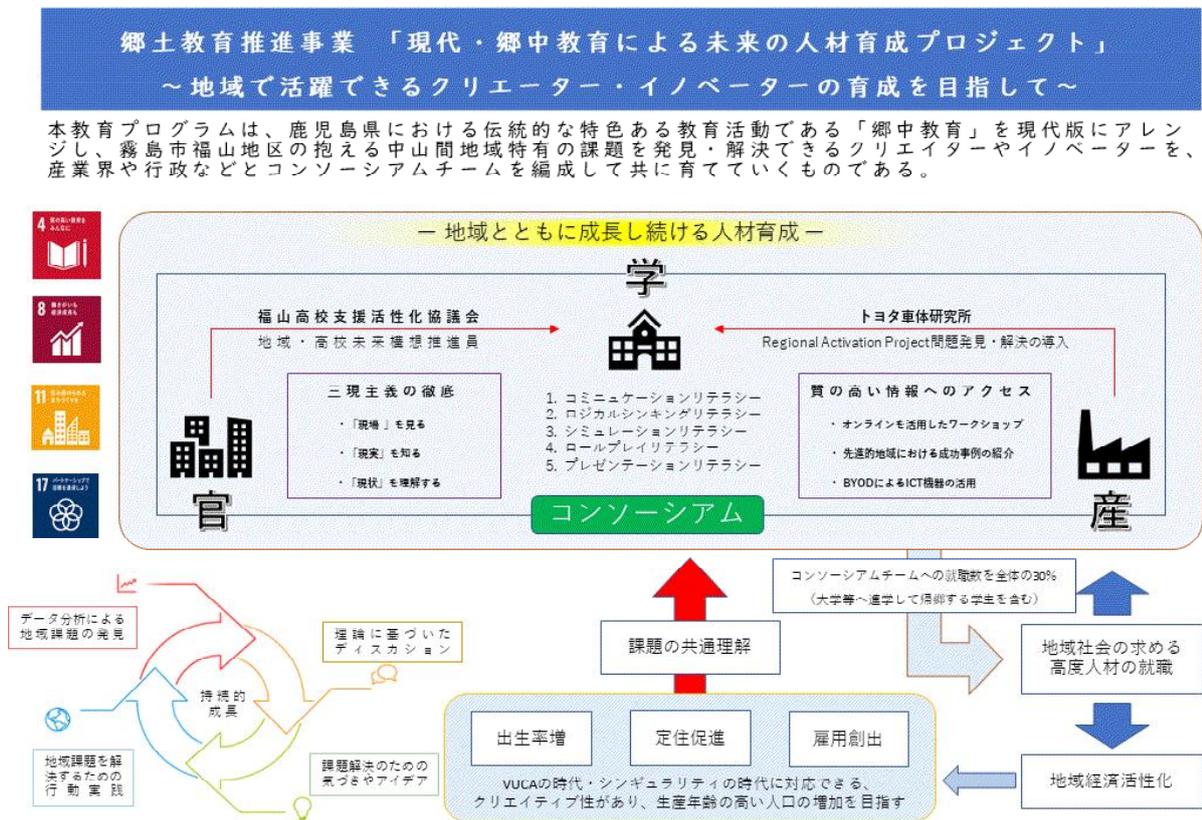
(1) 事業のねらいや目標

本校の所在地がある霧島市福山地区は、いくつかの限界集落が存在し急速な人口減による消滅可能性のある自治体が存在している。その人口減に比例するように子どもたちの数も大きく減少しており、本校でも統廃合の危機が訪れていた。しかし、地域住民の強い意志の下、「福山高校支援活性化対策協議会」が設置され、産官学を上げての支援体制が取られ本校は存続している。

そこで、現在「福山みらい創業塾」では、地域の行政・産業界を巻き込んだコンソーシアムチームを編成し、産官学の連携の下、中山間地域における新しい未来を担える人材育成に取り組む活動を実践している。この活動は、生徒だけでなく、地域の産業界や住民に対しても意識啓発の効果を生み出す教育プログラムとして、地域の未来を創り、その人材育成に大き

な役割を果たしている。また、校内では教育課程を学科・学年を飛び越えた横断的なカリキュラムにすると同時に、大学や産業界も学習に交わることで、異年齢集団による知識の相互補完機能を持つ学習形態になっており、より実社会の状況を反映しやすく、かつ実社会に近い学びをPBL型で実践できることが特徴となっている。

(2) 事業のイメージ図



3 事業の概要

日	内容	参加者
4月		
12日	オリエンテーション 「コンソーシアム紹介・アイスブレイク」 イントロダクション 「福山みらい創業塾とは・カリキュラム説明・評価法」	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 シナプス
26日	マイプロジェクトのテーマ発表 「2年生から1年生にテーマを発表」	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所

5月		
10日	ICT活用基礎（1年） 目的と目標の違い・オープンウィンドウ（1年） トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年）	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所
31日	ロジカルシンキング（1年） 「PREP法基礎・オープンウィンドウ」 トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 慶應義塾大学生とのオンラインセッション（1・2年）	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 慶應義塾大学
6月		
7日	ロジカルシンキング（1年） 「PREP法応用・オープンウィンドウ」 トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年）	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所
14日	キャリアワークショップ（1年） 「大学生とのキャリアデザインワークショップ」 トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」	普通科1・2年 商業科1・2年 アンカー トヨタ車体研究所
21日	校外活動（1・2年） 「課題設定・ロジカルシンキングトレーニング」 （都城西高校フロンティア科との合同ワークショップ）	普通科1・2年 商業科1・2年 都城西高校 都城市立図書館
7月		
5日	ロジカルシンキング（1年） 「フレームワーク・ロジックツリー」	普通・商業科1年 トヨタ車体研究所
12日	マイプロジェクト探究（1・2年） 慶應義塾大学生とのオンラインセッション（1・2年）	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 慶應義塾大学
8月		
夏季 休業	テーマに関わる調べ学習	普通科1・2年 商業科1・2年
9月		
6日	キャリアワークショップ（1・2年） 「テリー伊藤氏による講演・ワークショップ」	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 ロコモーション 域産官学共創機構

13日	創造性ワークショップ（1・2年） 「学校の問題発見・解決プロジェクト」	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 慶應義塾大学 ベガハウス
20日	ウェルビーイングワークショップ（1年） 「福山地区における福祉的な課題と幸福について」 トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」	普通科1・2年 商業科1・2年 鹿児島女子短期大学 トヨタ車体研究所
27日	マイプロジェクト探究（1・2年） 慶應義塾大学生とのオンラインセッション（1・2年）	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 慶應義塾大学
10月		
4日	プレゼンテーションワークショップ（1年） 「魅力あるプレゼン技法についての考察」 トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所
18日	アートワークショップ（1年） 「アートによるアウトプットの可能性について」 中間発表準備（2年）	普通科1・2年 商業科1・2年 域産官学共創機構 慶應義塾大学 トヨタ車体研究所
11月		
1日	中間発表	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所
8日	地域課題探究フィールドワーク（1年） 「福山地区 地域課題発見・解決提言」 トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」	普通科1年 商業科1年 松下美術館 坂元醸造 霧島市総合支所 トヨタ車体研究所 シナプス

15日	<p>地域課題探究フィールドワーク 「佳例川地区 地域課題発見・解決提言」</p> <p>トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」</p>	<p>普通科1年 商業科1年 佳例川公民館 シナプス 普通科2年 商業科2年 トヨタ車体研究所</p>
12月		
6日	<p>クラウドファンディングワークショップ 「地域の課題解決のための資金調達」</p> <p>トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」</p>	<p>普通科1年 商業科1年 Photo Officeアイ プラス 伊達醸造 普通科2年 商業科2年 トヨタ車体研究所</p>
13日	<p>マイプロジェクト探究（1・2年） 慶應義塾大学生とのオンラインセッション（1・2年）</p>	<p>普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 慶應義塾大学</p>
20日	<p>マイプロジェクト探究（1年） 「マイプロジェクトテーマ設定」</p> <p>トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」</p>	<p>普通科1年 商業科1年 トヨタ車体研究所 慶應義塾大学 普通科2年 商業科1年 トヨタ車体研究所</p>
1月		
10日	<p>視察研修報告会（1・2年） 「先進的な課題解決プログラムについて」</p> <p>マイプロジェクト探究（1年） 「マイプロジェクトテーマ設定」</p> <p>トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」</p>	<p>普通科1年 商業科1年 産官学共創機構 普通科2年 商業科2年 トヨタ車体研究所</p>

17日	ミュージックワークショップ（1年） 「アートによるアウトプット」 トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」	普通科1年 商業科1年 神話の里文化・芸術育成アソシエーション 普通科2年 商業科2年 トヨタ車体研究所
24日	マイプロジェクト探究（1・2年） 慶應義塾大学生とのオンラインセッション（1・2年）	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 慶應義塾大学
31日	広域高校連携（1年） 「都城西高校とのリーダーワークショップ・成果発表交流会」 トヨタ車体研究所による問題発見・解決（2年） 「課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計」	普通科1年 商業科1年 都城西高校 普通科2年 商業科2年 トヨタ車体研究所
2月（予定）		
7日	マイプロジェクト探究（1・2年） 慶應義塾大学生とのオンラインセッション（1・2年）	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所 慶應義塾大学
21日	発表準備	普通科1・2年 商業科1・2年 トヨタ車体研究所
3月（予定）		
1日	成果発表会	普通科1・2年 商業科1・2年 全コンソーシアム

4 事業の内容

(1) マイプロジェクト発表会

2年生一人ひとりが持つマイプロジェクトのテーマを新1年生に対して発表した。本校では学年や学科を超えて1年生と2年生が一緒になって活動を進めており、このプロジェクトテーマを聞いて所属するグループを選び年間を通しての活動を進めている。

(2) ICT活用基礎・活用

BYODとして一人一台端末によるパソコン・タブレット・スマホの活用による活動を展開しており、情報収集のみならずロジカルシンキングやコミュニケーションのツールとして利用をしている。その利活用については学校の教育課程には位置付けられていないこともあり、個人差が大きい状況であったが、基礎的なスキルを学ぶ時間を設けることで一定のICT活用能力を身に付けさせることができた。

(3) 課題発見・課題解決のノウハウを活用したプロジェクト設計（授業支援）

「トヨタ車体研究所 小濱実氏」

地元企業であるトヨタ車体研究所から支援員1名を派遣して頂き、トヨタ車体研究所による課題解決のレクチャーを受けた。ものづくりにおける「課題の発見」、「その本質追求」、「改善」という流れは、「地域の課題発見」、「その本質追求」、「改善」と同じである。これらを論理的に整理して実践していく手法を学び、PDCAを回していく授業は生徒にとっても大きな学びとなっている。

(4) ロジカルシンキング基礎・応用

先に結論から述べ、理由と具体例へとつなげるPREP法を積極的に活用し、目的と目標の違いをオープンウィンドウを使いながら考える授業を展開した。PREP法は年間を通してアウトプットする際の技法として利用しており、論理的思考を深めることに役立っている。また、目的と目標を整理することで生徒自身のマイプロジェクトを可視化しながら整理することができている。

(5) キャリアワークショップ（授業支援）

「アンカー」

三菱みらい育成財団の助成を受け、SDGsやキャリア探究を全国で支援しているアンカーによる大学生とのワークショップを実施した。慶応義塾大学特任教授の横田先生からSDGsに関する講話と、今後の社会の変化がどのように起こるのかをレクチャーして頂いた後、大学生達とキャリアについて考えるワークショップを実施した。年齢も近く、精神的に身近な大学生との活動は生徒にとって実感のあるキャリア探究活動になったようである。

(6) 県域を超えた協働活動（校外活動）

「都城図書館・宮崎県立都城西高等学校」

シャッター商店街となっていたデパートをリノベーションして地域活性化に成功した都城市立図書館の軌跡を図書館長に講話して頂いた。クリエ

イティブな空間として生まれ変わった施設が、地域に対してどのような効果をもたらしているかを知ることによって、生徒自身が自分たちの地域の課題を自分ごととして考えるきっかけとなった。また、宮崎県立都城西高等学校フロンティア科の生徒と共に、都城図書館に掲載してあるメッセージボードやインタビューから図書館の潜在的な問題を考えるワークショップを開催した。それぞれのグループで考えた問題解決案については、市民も聞けるように大ホールにて成果発表を行なった。市民の生の声を聞いたり、他校の生徒と意見交換をしたりすることで、いつもと違った視点で考えを深めることができたようである。

(7) メンターによるプロジェクト設計の支援（オンライン活動）

「慶應義塾大学・域産官学共創機構」

慶應義塾大学の学生が、本校生徒のプロジェクトを立案するまでのメンターサポートを実施した。大学生は教育活動や探究活動に高い興味を持っている生徒が集まっており、生徒だけでなく担当職員に対しても、プロジェクトの本質を突いた鋭い意見が出された。グループ編成は9グループとし、オンライン会議システムによるブレイクアウトルームを効果的に活用して、それぞれ各グループにメンターがプロジェクトの支援を実施した。

また、クラウドの共有機能を利用して、オンラインでも資料を上手く活用することができた。更にSaaS型ビジネスチャットツールを活用して、それぞれのグループ活動を可視化すると同時に、担当職員やメンターが情報提供をしたり、授業の振り返りをしたりするなど、ICTを活用した先進的な活動を展開した。

(8) キャリアワークショップ

「ロコモーション テリー伊藤氏」

芸能界で活躍されているテリー伊藤氏をお招きし「舐めてかかって真面目にやる」をテーマにキャリア講話を実施した。ご自身の慶應義塾大学大学院で学んだ経験や仕事へ向き合う姿勢などパワフルな人生感を生徒に伝えて頂いた。生徒は学び続ける姿勢を肌で感じ取っていたようであった。

(9) 学校の問題発見・解決プロジェクト

「慶應義塾大学・域産官学共創機構・ベガハウス」

慶應義塾大学の学生9名が来校し、ベガハウスと共に問題発見・問題解決のワークショップを実施した。具体的には、学校の中に存在する問題を大学生と共に探し出し、それをどのように解決するかを大学生と共にアイデア出しを行なった。生徒からは、「居場所づくり」や「屋上の活用」、「掃除用具収納場所の改修」など多くのアイデアが出された。

また、それらを実現するためベガハウスが設計と施工をサポートした。

(10) ウェルビーイングワークショップ

「鹿児島女子短期大学」

鹿児島女子短期大学のゼミ生が福山地区で実施したフィールドワーク調査の結果をもとにして、福祉の視点から福山地区のウェルビーイングをテーマとしたワークショップを実施した。高齢化率の高まりや、生涯をどう終えたいかなど、福山地区に存在するリアルな課題について教授や大学生の調査結果の話聞いた後、実際に福山地区で住む人々の幸福感をどのように高めていけば良いかなどをディスカッションして発表した。

生徒にとっては福山地区の現実的な問題を大学生と共に考え課題解決方法を模索する貴重な時間となった。

(11) プレゼンテーションワークショップ

世界的に有名なプレゼンテーション番組「TED」を視聴した後、優秀なプレゼンテーションは何を伝えようとしているのかを考察するワークショップを実施した。視聴プレゼンテーションは、宇宙開発を目指す株式会社植松電機代表取締役植松努氏の「思うは招く」で、生徒は夢を諦めず目標に向かって進む姿に心を打たれていたようであった。また、どのようにしたら自身の想いを相手に伝えられるのかをグループでディスカッションすることで、プレゼンテーションの本来の在り方を認識できたようである。

(12) アートワークショップ（授業支援）

「域産官学共創機構・慶應義塾大学 長谷部葉子氏」

学校が魅力的な存在となるには、自分たちがどのような行動を取れば良いのかをグループワークで考える作業をした。学校教育で多く用いられているテキストベースのアウトプットではなく、色ペンと広幅用紙を使って、理想の姿を描く授業が展開された。普段は言語化してアウトプットをすることが苦手な生徒が、発表で生き生きした姿を見せるなど、テキストベース以外のクリエイティブなアウトプットが教育に高い効果をもたらすことを認識することができた。

(13) 中間発表

2年生が自身の設定したマイプロジェクトのテーマを発表した。少人数の学校の特性を生かし、2年生の全生徒が1年生に向けて発表をできるようにターム分けを行い、ローテーションしていく運営スタイルで実施をした。生徒にとっては、一人ひとりの発表を具体的に聞くことで、より身近な課題認識ができる時間になったようである。

(14) 地域課題探究フィールドワーク（地域課題発見・解決提言）

「佳例川地区」

霧島市福山町の限界集落である佳例川地区との協働活動でフィールドワークを実施した。地元住民の方と生徒が、共に地域の魅力・課題を発見するためのグループワークを実施してフィールドワーク先を決定した。行動は各グループ、地域住民の方と一緒にジャンボタクシーで移動した。

生徒は、それぞれの行き先で地域の魅力・課題を記録しながらBYODを活用して、クラウド上に保存をした。

また、シナプスの協力を得て、衛星インターネット通信によるICT機器の活用も展開した。

(15) 地域課題探究フィールドワーク（地域課題発見・解決提言）

「福山地区」

ア 松下美術館

福山高校の前身でもある旧制福山中学校出身の医師である松下兼知氏によって開館した松下美術館を訪問し、自校の先輩たちが描いた地域の課題や魅力などを探究した。画家になりたいという夢を抱きながらも医師となり、原爆の被爆経験を経て帰郷する中で、故郷のために美術館を開館させた人間像は生徒にとっても大きな学びになっていた。

イ 中茶屋公園

鹿児島県を代表する絶景スポットである中茶屋公園を散策した。桜島ダイヤモンドの風景などの観光資源や、島津忠将の城跡や墓がある日州街道などの歴史的価値が埋もれていることに気付くなど、地域の魅力を再発見する活動となった。

ウ 坂元醸造

国内では福山地区でしか製造することができないと言われている黒酢の生産工場を訪ねた。黒酢誕生の歴史や、その秘話、ブランディング戦略などを担当者から話して頂いた。また、黒酢レストランで黒酢の試飲をしながら地域の特産品が抱える課題について考察するワークショップを実施した。坂元醸造の担当者からは「我々が考えもしなかった視点から意見が出されて大変勉強になった」などのコメントを頂いた。生徒も大変嬉しかったようで、地域との協働活動による地域愛が醸成された瞬間でもあった。

(16) クラウドファンディングワークショップ

「Photo Officeアイプラス・伊達醸造」

本校出身者であるPhoto Officeアイプラスの板元氏や、地元企業の黒酢メーカーを事業継承した富澤氏をお招きして、実際のクラウドファンディ

ングへの取組について紹介して頂いた。また、実際に福山をテーマにした具体的なプロジェクトについて一緒に考えていくワークショップを実施した。生徒にとっては、地域でパワフルに活躍されている身近な大人と交流をすることで、より具体的な課題認識を持てたようである。

(17) ミュージックワークショップ

「神話の里 文化・芸術育成アソシエーション」

プロのバイオリニストとピアニストを親に持ち、古民家改修をしながら音楽による地域づくりを目指すN高校の生徒である山内氏に、自身の夢や目標を実現するためのキャリアやトビタテ留学JAPANへ向けた取組などを紹介してもらった。また、バイオリンや打楽器を使ったアートのアウトプット体験も実施した。同じ年齢の他校生が取り組む社会課題解決プロジェクトは大きな刺激を受ける機会となったようである。また、多くの生徒にとってバイオリンという初めて触れる楽器にチャレンジしながら、言語以外で考えを表現するアートの思考を鍛えるという経験は貴重な機会となった。

(18) リーダーワークショップ・成果発表交流会（広域高校連携）

「宮崎県立都城西高校・鹿児島県立曾於高校」

地域の先導者を育てるという共通の目標を持つ都城西高校との交流会及び成果発表会の見学を実施した。また、「曾於みらい塾」を展開する曾於高校も参加した。都城西高校は宮崎県であり行政区分が異なるが、隣接県として本校や曾於高校と経済圏が同じであり、地域の未来を担う人材が集まり意見を交換することは大変意義のある活動になった。それぞれの学校で取り組むことを発表したり意見交換をしたりすることで、より具体的な地域の課題を考える機会となったようである。

5 事業の成果とその評価

本プロジェクト「福山みらい創業塾」では、地域社会の先導者となる人材育成を目的として掲げ、その達成のために、以下の3つの目標を立てた。

- (1) 郷土への愛着を持つ学生が持続的に生まれる環境がある。
 - ・ 「現代版郷中教育」として異年齢集団による教育環境の構築
- (2) 自ら挑戦しようとする精神を持つ学生が育つ環境がある。
 - ・ 薩摩の教え「人の順序」を意識
 - ア 何かに挑戦し、成功した者
 - イ 何かに挑戦し、失敗した者

- ウ 自ら挑戦しなかったが，挑戦した人の手助けをした者
- エ 何もしなかった者
- オ 何もせず，批判だけしている者

(3) 問題発見・問題解決の力が身に付く環境がある。

- ・ 「5つのリテラシー」の獲得
 - ア コミュニケーションリテラシー
 - イ ロジカルシンキングリテラシー
 - ウ シミュレーションリテラシー
 - エ ロールプレイリテラシー
 - オ プレゼンテーションリテラシー

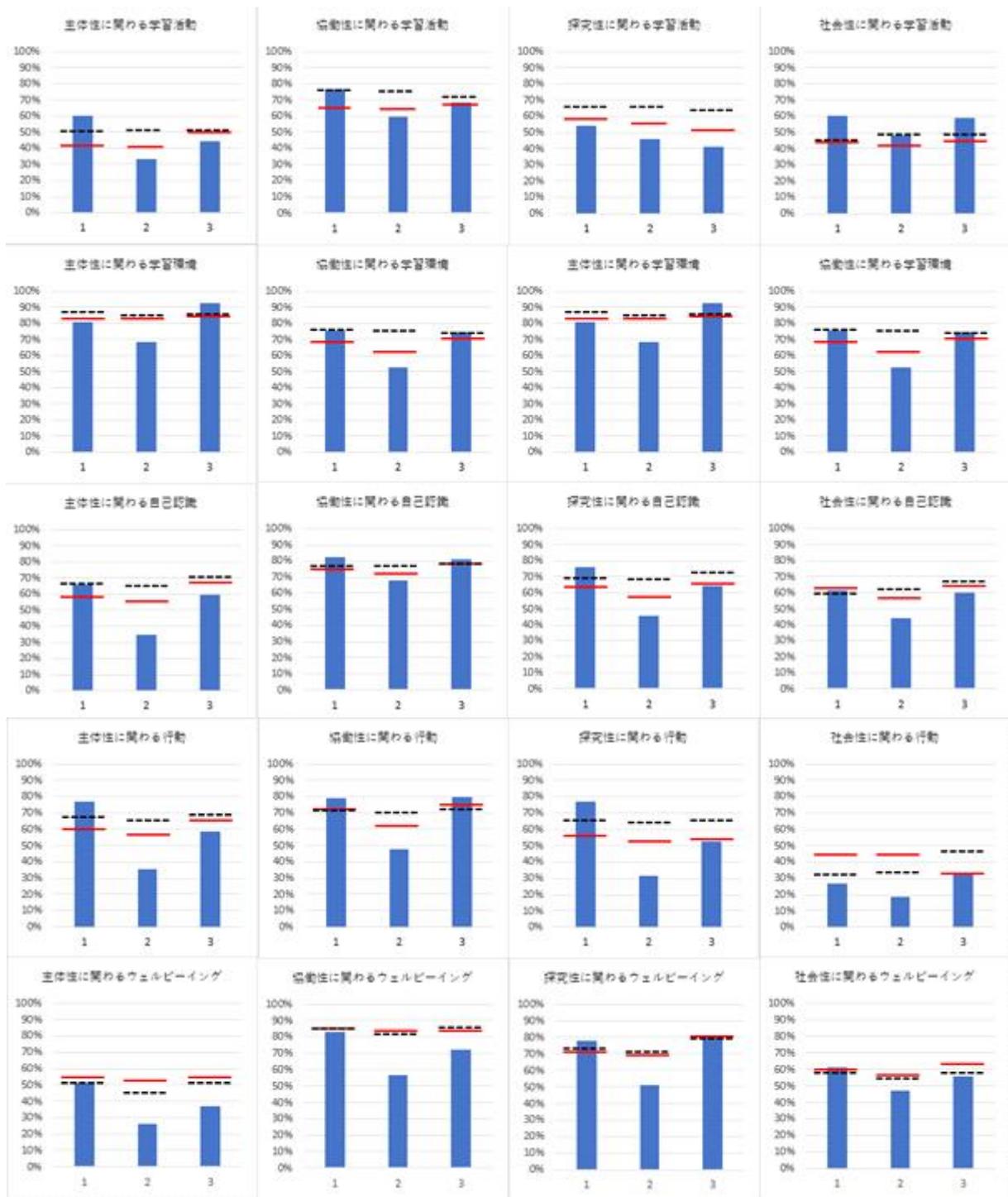
これらの活動による効果測定は，三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の協力を経て，定性的かつ定量的な分析を実施した。その後，得られたデータを係で分析して課題解決へ向けた次の一手を考えた。また，分析結果は職員やコーディネータと共有して学校全体の課題としての位置付けを図った。

本校の強み・伸びしろについては以下のような肯定的な回答の結果が出ている（表1）。特に生徒同士の協働活動が活発化しており，個性を認め合う環境があることも分かった。これは，本校がインクルーシブ教育に力を入れており，積極的に教育相談などを実施して生徒に関わるなど，学校全体で自己肯定感を高めるための取組をしていることが効果をもたらしていると考えられる。

	主体性	協働性	探究性	社会性
学習活動	46%	68%	48%	55%
学習環境	79%	67%	75%	64%
自己認識	53%	77%	62%	55%
ウェルビーイング	38%	71%	69%	55%

表1 アンケート調査による肯定的な回答の割合

また，調査については，全国および県内の学校との相对比较も実施し客観的な視点を取り入れながら，昨年度の課題に対する施策の効果を検証するため学年ごとの分析も実施した（図1）。



— 県平均 - - - 全国平均

図1 学年別分析

このように、本事業ではエビデンスに基づいた調査結果による施策を重視した。相対比較としては、昨年度は他地域との差異が目立つ結果となっていたが、本年度は課題に対する改善の効果が新1年生に現れてきている。ほぼ全ての項目について昨年度より良い結果が出ており、全国や県平均に近い、または超えている状況になっている。特に、昨年はウェルビーイングにおける主体性が低

く現れていたもので、そこに注視して改善策を展開したことで一定の成果が出ていることが見てとれる。しかし、社会性に関わる行動については昨年度に引き続き低い結果が出ている。これはコロナウイルス対策による社会的な活動が制限されていたことが大きな要因と考えられる。

具体的な分析結果を見ると、協働性における受容力や対話力が高い数値を示しており、これは産官学連携によるコンソーシアムの関わりによる影響が大きく影響しているものと考えられる。特に、慶應義塾大学の学生によるメンターセッション及びグループワークは、生徒の自己肯定感を高め、学習意欲やコミュニケーション能力を伸ばしていると感じている。

また、地元企業である「トヨタ車体研究所による課題発見・課題解決」の学びは、生徒の課題解決に対する論理的思考を高めることに役立つと同時に、地域への愛着が生まれるなどの効果を生み出している。これらは、生徒だけでなく職員に対する意識啓発にもつながっており、学校全体の組織の変容が見られた。

更にはシナプスによるICT環境の支援や、域産官学共創機構によるコーディネーター派遣や支援環境の構築など、産学連携による活動が学校を中心とした人材育成を支えている。

6 今後の課題

本プロジェクトでは、三現主義（現場・現実・現物）を重視し、フィールドワークによる現地調査を実施した。これは、地元から通学する生徒が少ないため郷土教育推進を進めるにあたり、必須の活動条件であった。しかし、「総合的な探究の時間」の単位数内でフィールドワークへ出かけるには、移動に多くの時間を費やしてしまい実際の活動時間が少なくなってしまう状況があると同時に、生徒の多くがバス通学であることに加え本数が少ないため、早目にフィールドワーク先から戻らなければ帰宅困難な生徒が生まれてしまうなどの問題が発生した。また、中山間地域であるため道幅も狭いため大型バスによる地域での活動が難しく、数台のジャンボタクシーを使わざるを得ない状況であるため、コスト面での課題があることも分かった。現在は、三菱みらい育成財団などからも助成金を頂くなどして活動資金を獲得しているが、来年度で助成期間が終了するため今後は活動を大幅に縮小した計画にせざるを得ない状況になっていることが大きな課題となっている。

次に「事業の成果と評価」に示した、生徒による「肯定的な回答」の具体的な中身を見ると、学校教育だけでは解決しない項目が多く、社会教育、家庭教育との連携が必要不可欠な状況にあり、地域との協働活動の場を作り上げていくことが欠かせない課題となっている。また、昨年度の分析結果として課題であった、論理的思考を不得意とする回答は施策の効果が現れており改善の傾向が見られるが、まだ、生徒から「どう考えていったら良いのか分からない」、「自分には無理」という言葉が多く聞かれる。このことについては、高校入学まで

のロジカルなトレーニングが不足していることも考えられ、初等中等教育機関との積極的な連携を図っていく必要があると考えている。

地域との連携については、霧島市による「福山高校支援活性化対策協議会」が設置されており、その土壌が整っていたが、現在は市の意向により休会になっている。情報の共有や地域づくりへ向けた合意形成が滞っていることが課題となっている。また、本校のように一市多校の状況にある学校では平等性の観点から市と連携した活動が難しい状況にある。行政単位での学校支援体制には大きな格差が生まれてきており、全国的な地域における人材育成の課題として認識されることが必要である。

郷土教育推進に関わるこれらの課題は、学校からの自前主義を脱却し、地域と密接かつ強力に連携をしながら、共に社会を創り上げようという意識の醸成から始めなければ解決の糸口は見出せないものである。地域社会の声を聞き、その要請に応え、福山地区の未来を作り上げるため、本校職員も研鑽に努め、地域と共に「地域社会を先導する人材」を育てていきたい。

7 協働先一覧

No.	協働先	所在地	主な内容
(1)	株式会社トヨタ車体研究所	霧島市	問題発見・解決のアドバイザー
(2)	株式会社ロコモーション	鹿児島市	講師派遣
(3)	株式会社シナプス	鹿児島市	I C T支援 アドバイザー
(4)	慶應義塾大学	東京都	慶應義塾大学 S F C 研究所上席所員による協力 講師派遣
(5)	一般社団法人域産官学共創機構	東京都	大学生メンターの派遣 探究コンテンツ提供 コンソーシアムマネジメント 講師派遣 I C T機器の支援
(6)	都城図書館	都城市	講師派遣 ワークショップ
(7)	株式会社ベガハウス	鹿児島市	ワークショップ 講師派遣
(8)	霧島市福山総合支所	霧島市	フィールドワーク支援
(9)	鹿児島県立曾於高校	曾於市	合同視察
(10)	鹿児島女子短期大学	鹿児島市	ワークショップ

(11)	宮崎県立都城西高校	都城市	ワークショップ
(12)	公益財団法人松下美術館	霧島市	地域探究フィールドワークへの協力
(13)	坂元醸造株式会社	霧島市	地域探究フィールドワークへの協力
(14)	佳例川公民館	霧島市	地域探究フィールドワークへの協力
(15)	合資会社伊達醸造	霧島市	ワークショップ 講師派遣
(16)	Photo Officeアイプラス	霧島市	ワークショップ 講師派遣
(17)	神話の里 文化・芸術育成アソシエーション	都城市	ワークショップ 講師派遣
(18)	一般社団法人アンカー	東京都	ワークショップ開催

8 その他



南日本新聞（令和5年9月10日）